

秋季における飼養管理について ～秋季に発症しやすい様々な疾病に要注意！！～

今年の夏季は例年より気温が高く推移しており、人間・牛ともに暑さを感じる日が多かったです。そこで、夏季から秋季への変わり目に、注意すべき飼養管理ポイントについてご説明します。

○今年における夏季の気温について

地球温暖化などの影響によって、日本の気温は+1.26℃の割合で年々増加しています（100年単位）。宗谷地方もその例外ではなく、2023年は平年と比較しても気温が高く推移しています（図1）。

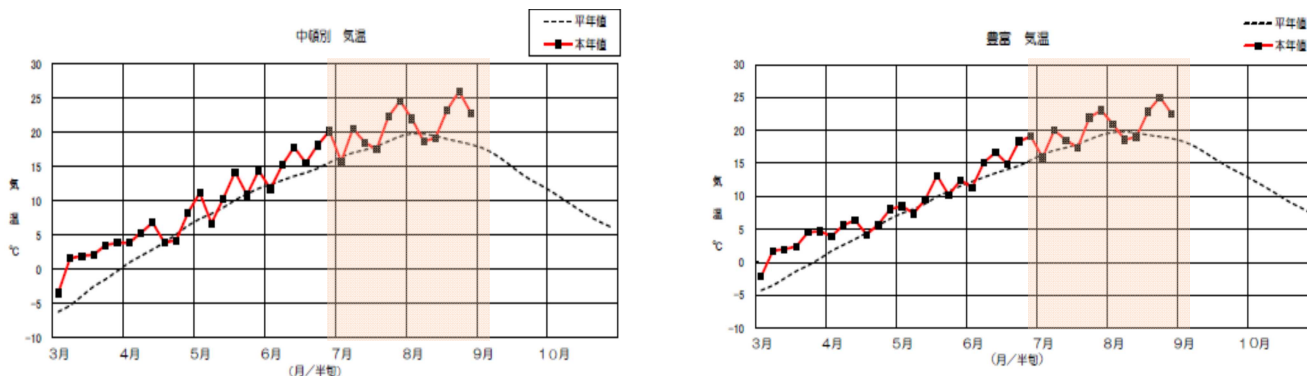


図1：平年と本年における中頓別町と豊富町の平均気温差（参照：宗谷農改HP 農業気象）

乳牛は19℃から呼吸数の増加、21℃から採食量の低下、22℃から乳量減少が始まるといわれています。そのため、夏季は乳牛の暑熱ストレスを緩和させるための工夫が必要になってきます。

また、暑熱ストレスを受けた影響は、冷涼になった秋季に様々な疾病としてでてきます。夏季の暑い時期が終わったからといって、安心は禁物です。

○秋季に様々な疾病が発生する原理

暑熱時は、体表付近の血流で代謝熱を放散しようとし、血液が内臓に運ばれにくくなった結果、ルーメンの機能が低下し、採食量が減少してしまいます。そのため摂取エネルギーは不足しますが、乳牛は乳を出そうとするため体に無理が掛かります。秋季に入り涼しくなると、代謝が活発になり、エネルギー要求量は増えます。しかし、減少した血液量は、戻



写真1：暑くて舌を出している牛

さらに、季節の変わり目の不安定な気候が加わると、選び喰いなどに起因する大腸アシドーシスや低カルシウム血症等の周産期疾病による事故が、発生してしまいます（写真1）。

○秋季の乳牛飼養管理におけるポイント

①良質な粗飼料、ビタミンの給与

夏季に暑熱ストレスを受けた体を回復させるためには、「栄養」を充足させることが重要です。粗飼料の採食量が増えないうちに、濃厚飼料を増給してしまうと、アシドーシスの発生リスクが高まってしまうため注意が必要です。消化の良い繊維はもちろん、ミネラルやビタミンの給与にも心がけましょう（写真2）。



写真2：飽食にされている牛

②飼槽・ウォーターカップ（水槽）の清掃

飼槽やウォーターカップが不衛生な場合、飼料の変敗や飲水量の不足から採食量が低下してしまいます。

そのため、飼槽やウォーターカップの清掃はこまめに行い、清潔を維持するよう意識しましょう（写真3）。

ウォーターカップは、1週間に1回軽く擦ると清潔度を維持することができます。汚れが酷い場合には、飼料用重曹を300gほど入れ、擦ることで汚れが落ちます。



写真3：綺麗なウォーターカップ

③飼料の給与回数、餌押し回数の増加

飼料の少量多回給与や餌押し回数を増やすことで、採食意欲を高める効果があります（写真4）。

また、糖質系液状飼料などを使用し、飼料の嗜好性を上げるなどの工夫をしましょう。



写真4：餌押し

④こまめな敷料の交換

気象庁の観測によると、今年は例年よりも9月の湿度が高く推移しています。湿度が高いと、牛床が乾きにくくなり、細菌が繁殖しやすくなります。

加えて、暑熱ストレスにより免疫力が低下しているため、乳房炎が発生しやすくなります。乳房炎の発生を抑えるためにも、こまめに敷料の取り替えを行ったり牛床環境衛生資材の散布を行い、牛床を乾燥させるよう意識しましょう（写真5）。



写真5：乾燥した牛床

作成：宗谷農業改良普及センター（令和5年9月）